第四十八号原稿募集

左記の要領で、第四十八号の原稿を募集します。

一、内容　国語学・国文学・漢文学・書道・国語科教育に関する論考

一、字数　縦書き（30字×25行×2段で一頁）、横書き（42字×37行で一頁）、但し、共に15頁以内程度とします。原則として、電子データと紙媒体でお送りください。

一、締切　二〇二三年九月三十日。但し、原則として、同年六月三十日までに、論題・卒業・修了年度を明記の上、投稿の申し込みをして下さい。

一、宛先　〒八五二－八五二一　長崎市文教町一の一四
長崎大学教育学部内　長崎大学国語国文学会事務局
kira@nagasaki-u.ac.jp
郵送か電送で。電送は右のメールアドレスまでファイルを添付してお送りください。

一、論文掲載の可否は、事務局にご一任ください。

一、掲載論文には、抜き刷り二十部を贈呈致します。

一、リポジトリへの掲載に関しては、事務局にご一任下さい。

編集後記

長崎大学国語国文学会誌『国語と教育』第47号をお届けします。

さて、本号には実践報告二本、資料紹介一本の投稿がありました。まず、実践報告の一本目は、本学大学院を昨年度修了された大牟田歩氏の「単元「清少納言の人物像を探る」の実践～「書く力」の向上を目指して～」です。清少納言の『枕草子』を教材として、同随筆を読んで生徒が考えを持ち、適切な表現を選んで自身の考えを書くという一連の活動が記されています。具体的には、第一段「春はあけぼの」を始めとする複数章段を読み味わい、その読み解いた章段の内容をもとに清少納言の人物像に迫り、さらには古典を読むことの意義を生徒に考えさせ、そして文章にまとめさせるものです。ともすると、古文を目にすることにも抵抗を覚える生徒が存在するという教育現場の置かれた実情がありますが、同授業においては生徒が古文と向き合い自身の古文に対する考えを文章にする試みが報告されており、非常に挑戦的な実践例といえましょう。また、同授業の成果と課題に対して、生徒の実態を客観的かつ冷静にとらえた報告者の分析および考察がなされており、示唆を受けるところが大きいです。

次に、二本目は本学附属小学校国語部の中村慧亮氏の「言葉を追求し続ける子どもの育成を目指して」です。タイトルにもある「言葉を追求し続ける子どもの育成」を目標として定め、そのための具体的な手立てとして「考えの更新を促す言語活動」と「言葉の実体験」を実践しています。例えば、二年生の「かさこじぞう」の授業においては、物語を初めて読んだ後と学習後の感想を比較することにより、児童一人一人が学びの深まりを実感する単元計画が立てられています。また、登場人物のじいさまがじぞうさまの頭の雪をかき落とす場面においては、石に積もらせた雪を実際に払う体験を通して、児童がじいさまの言動をより深く読み取る結果に繋がったとする報告がなされており、非常に興味深い試みといえます。

以上、二本の実践報告ともに、日々児童生徒と向き合う現場の先生ならではの実践的かつ機知に富んだ授業例を御紹介下さいました。記して御礼申し上げます。一方、本号においては論文を掲載できませんでしたこと、ひとえに編集の至らなさゆえと深く反省しております。本誌は、会員の皆さまの御理解と御支援の上に成り立っております。卒業生の皆さま、また御退職になられた元大学教員の先生方の御投稿、また学会発表を切にお願い申し上げる次第です。

（吉良記）